

シンポジウム「地域社会の変容と歴史資料保存の20年」 2022年2月19日

自然災害危機、制度的危機、人的自然危機
～岡山の20年～



報告 定兼 学
(岡山県立記録資料館)

1

報告者

- ・今回、「この20年」というタイトルで話をしますが、わたくしは、その20年前（1980年）から歴史資料と関わってきました。1989年には公文書館計画を策定して、明るい未来に希望を持っていました。ところが1994年に計画がストップして、岡山県立記録資料館を開館できたのは2005年です。
- ・わたくし報告は記録資料館というアーカイブズ職員の立場でのものです。もっぱら全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）との関わりで歴史資料保存につとめています。
- ・史料ネット研究交流会とコミットできると思うのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

2

はじめに 歴史資料の危機

②制度的危機

①自然災害危機

公文書

- ・市町村合併
- ・学校などの統廃合
- ・文書管理の変更

古文書（地域資料）

- ・所蔵者、担う人の絶滅
- ・所蔵者の不見識による廃棄
- ・管理場所がない

3

①自然災害危機 (1)

2000年10月 鳥取西部地震
史料保全活動機運たかまる
岡山県、段ボールを緊急調達し備える

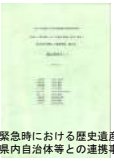
2004年 8月 牛窓地区高潮被災

2005年 9月 岡山史料ネット発足
(事務局・岡山大学文学部日本史研究室)
岡山県立記録資料館開館 冷凍庫を装備
岡山史料ネットは「予防ネット」として
講演会、セミナー、資料所在データベース
の作成をすすめる


4

①自然災害危機 (2)


岡山史料ネットの予防ネット活動報告
岡山大学学長裁量経費・地域貢献支援事業費



災害など緊急時における歴史遺産の保全に関する県内自治体等との連携事業
2006年



歴史遺産の保全と活用に関するネットワーク・岡山
2007年



歴史遺産の保全と活用をめぐる地域ネットワークに関する研究
2008年

5

①自然災害危機 (3)


2012年 史料ネット関係者と合同フォーラム開催
(報告書発行は神戸大学)

2014年 岡山県文化財救済ネットワーク発足
県内大学、県博物館協議会、県建築士会
県内市町村、岡山史料ネットが参加

2018年 西日本豪雨災害
・様々な個人・団体が取り組む

「残す。」(2021年1月30日刊行)

1章 残す
2章 つなぐ
3章 伝える



6

①自然災害危機 (4)

2018年 西日本豪雨災害

- ・全国から支援 (全国史料ネット、全史料協など)
- ・古文書以外の歴史資料対応
 - ・公文書救済 倉敷市歴史資料整備室
 - 岡山県立記録資料館
 - 県立博物館
 - ・仏像 写真洗浄@あらいぐま
 - ・写真 絵画修復工房YeY

前出「残す。」編集に尽力された。
災害対応記録のアーカイブ化

7

①自然災害危機 (5)

2018年 災害対応記録のアーカイブズ



岡山県



倉敷市社会福祉協議会



山陽新聞 (岡山市)

8

①自然災害危機 (6)

2018年 「災害支援ネットワークおかやま」発足

2019年 岡山史料ネット ホームページ開設
「Newsletter」創刊2021年 岡山大学文明動態学研究所に
文化財レスキュープロジェクト
(岡山史料ネット) 組み込む
細く長く続くクリーニング作業

9

②制度的危機 (1)

地域変容 岡山県基礎的データ

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
人口 (万未満切り捨て)	195万	195万	194万	192万	188万
自治体数	78	32	27	27	27
学校数					
小	461	445	428	410	391
中	179	178	174	170	164
高 (公立高)	107 (83)	108 (67)	91 (63)	86 (63)	86 (63)

10

②制度的危機 (2)

改革内容

岡山県 行財政改革

1997年行財政改革大綱

1999年第2次

2003年第3次

そこにきて

2008年地方交付税等大幅削減

2008年6月2日

岡山県財政危機宣言

- ・大規模事業凍結
- ・定数削減
- ・人件費カット
- ・民間委託推進
- ・外郭団体見直し
- ・権限委譲
- ・組織再編

・公的施設の見直し

11

②制度的危機 (3)

2005年 県立記録資料館 設立
公文書収集は県史編纂室時代
1986年より、
記録資料館設立以前は県総務学事課
が収集を続けていた。

縮小を続ける県組織の廃棄公文書の選別収集

12

②制度的危機 (4) 公文書



1992年県庁地下の公文書廃棄



収集例年約3%増
大分県
2012年 県民局の廃棄
限界あれど
選別収集している
県立記録資料館

13

②制度的危機 (5) 学校統廃合



学校資料廃棄にあたり、歴史的資料の収集・保存について (依頼書)
2004.1.29 第1号
岡山県立資料館長 倉敷市立資料館長 宛

【趣旨】
廃棄する資料の中には、必ず歴史的資料があります。我が校の「あかし」、倉敷市・岡山県の宝となる資料を確保ください。残そうとしないと残りません。

【作業手順】
① 学校で作成・保管している資料を調査
② そのリストを作成
③ 廃棄するリストを作成

【重要約指書】
【重要約指書】
特に厳格に選別し、重要約指書を作成し、倉敷市立資料館へ提出してください。倉敷市立資料館は、倉敷市立資料館から歴史的資料の収集・保存について、倉敷市立資料館に依頼しています。



14

②制度的危機 (6) 市町村合併



公文書廃棄にあたり、歴史的資料を収集・保存する方法 (仮)
岡山県立記録資料館 2004.12.1 第4号


【大前提】
① 廃棄する公文書の中には、必ず歴史的資料があります。
② 歴史的資料は、地域の歴史・文化の宝であり、貴重な財産です。
③ 歴史的資料を収集・保存することは、地域の歴史・文化を伝えるために不可欠です。
④ 歴史的資料を収集・保存するためには、適切な方法で収集・保存する必要があります。

【集約の原則】
① 公文書廃棄前、選別作業
② 廃棄する資料に選別作業
③ 廃棄する資料に選別作業
④ 廃棄する資料に選別作業




15

②制度的危機 (7) 自治体史編纂後



無人の郷土資料館へ
フィルムは新館
(ヒネガールンドローム)

自治体史編纂から文書館への道
岡山県立記録資料館
倉敷市歴史資料整備室

- ・ 吉井町史 (赤磐市) 江戸時代村落32
所在調査 132 (他に町外32)
(『吉井町史 第3巻』1995年刊より)
- ・ 熊山町史 (赤磐市) 江戸時代村落21
所在調査 108 (他に町外42)
(『熊山町史 参考資料編』1995年刊より)

16

②制度的危機 (8) 市町村

市町村の三難

- 人材難 (古文書のわかる人がいない)
- 財政難 (必要性は感じてても人材の確保には至らない)
- 育成難 (自治体史編纂のノウハウが継承されず人材が育たない)

「県立記録資料館が市町村支援をするべきだ」
(長谷川 伸「地域史料の保存と活用を考える」『岡山県立記録資料館紀要』16号、2021年、PDF)

県として難しい 市町村連携

17

②制度的危機 (9) 文化財保存活用地域計画

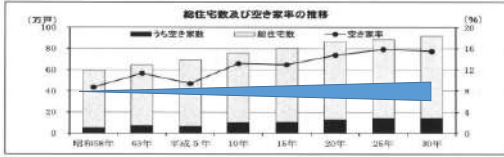
(公文書館計画なし)

- 2018年 倉敷市歴史文化保存活用計画
災害対策等の文言なし
- 2019年 岡山県文化財保存活用大綱
- 2020年 津山市文化財保存活用地域計画
災害対策等の文言あるが
災害救出体制について・・・
(公文書館機能)
- 2006年 倉敷市に歴史資料整備室発足
今岡山県内で公文書館計画を聞かない

18

③人的自然危機 (1)

平成30年 岡山県 空き家件数
 住宅数 916,300戸
 空き家 73,400戸 (15.6%)
 (別荘や貸借・売却用などを除く
 (8.0%) 長期不在・取り壊し予定のもの)



高齢者率 20.2%(2000年) → 30.5%(2020年) 高齢者独居率は16.9%

19

③人的自然危機 (2)

崩れゆく農村風景



20

③人的自然危機 (3)

崩れゆく街道筋風景



21

③人的自然危機 (4)



江戸時代岡山下町豪商の墓地

22

③人的自然危機 (5)

古文書寄贈者 (記録資料館へ)



2007年寄贈時 笠井家資料



現在は不在

23

③人的自然危機 (6)



2004年受入 布勢神社資料



岡山市東区布勢神社



24

③人的自然危機 (7)



一人で守っていた古文書とお別れ
記録資料館へ寄贈



購入家屋（元廻船問屋）をリニューアルする業者から寄贈の申し出

25

③人的自然危機 (8)

廃屋（元岡山高等女学校教師宅）の中から現れた人見絹枝さんの写真（1928年アムステルダム五輪銀メダリスト）



廃屋管理者より2020年寄贈
杉田家資料

26

③人的自然危機 (9)

記録資料館の古文書（寄贈）受入

倉敷市歴史資料整備室

期間	期間	件数	計
1980～2005年(県史編纂室～)	25年間	58	* ~2005 60
2006～2015年(開館後)	10年間	137	2006年～2020年 94
2016年	16	90	
2017年	11		
2018年	18		
2019年	29		
2020年	29		計 154
累計		285	
参考			*=1990年
2022年(2月6日時点)	29		

27

③人的自然危機 (10)



若い力に頼る (1992年)

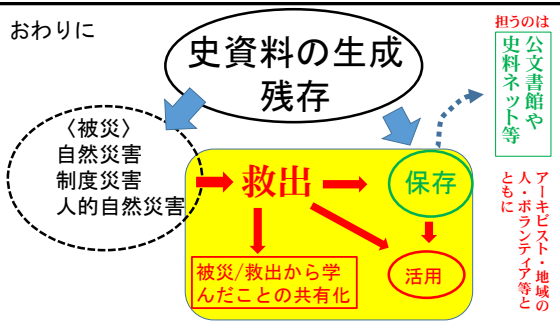


高齢者に頼る (2017年)

倉敷市は岡山大学文学部と提携して文書整理している

28

おわりに



29

おわりに

歴史資料が重要であることを丁寧に説明し続けることによって、地域の人と日常からつながりを形成し（例えば、「火事が起きたら119番」みたいな人々の認知）その延長線上に史料ネットや文化財・アーカイブスが存立する。

日頃の営みのなかで歴史資料が重要だとなれば在野の人に興味を持つ人が生まれ育ち、地域にはその専門職がどうしても必要だとの声もあがって、専門職を招聘・採用するようになる（したい）。無医村だけでなく、無アーキビスト村だと困る社会に。

アーキビストは島根大学が養成してます。

30